

NEUTRAL 通信 vol.5

「まるで本屋に立ち寄るかのように、アートやクラフトを気軽に楽しんでもらいたい」という NEUTRAL のコンセプト実現に向け、NEUTRAL 通信を発行しています。

第5回目は、漆芸家の日置美緒さんにインタビュー。
NEUTRAL 通信が作品鑑賞のヒントとなりますように。

朔あるいは、金環日食

2022.11.3 thu. - 11.18 fri.



漆芸家

日置美緒 / MIO HEKI

京都市立芸術大学卒業。国宝・重要文化財など、歴史建築・仏像・古美術等の修復工房にて、修復師として活躍後に独立。舞踊家の身体を飾る漆装飾、独創的美術、海外著名芸術家との舞台創作も行う。国内外での展示等多数。2015年よりパリ、アムステルダム、マーストリヒト、マドリードなど世界主要都市で展示及び金継ぎと漆のワークショップを開催。花椿、フィガロジャポン、NHK WORLDなどに出演。著書「環（たまき）金継ぎのかたりべ」（日英版）京都にて『伝統を超えた美しさ』をテーマに茶道具・陶磁器の金継ぎ・漆塗り装飾・ジュエリーを創作する「Atelier hifumi」を主宰。

堀川新文化ビルディング 館内インフォメーション

大垣書店
OGAKI BOOKSTORE



SHOKODO
KYOTO

NEUTRAL

Gallery P A R C
GRAND MARBLE

堀川中立売通を西に行くと「蘭州牛肉拉麺」という中華・台湾料理のお店があります。そこの「牛肉麺」が美味しく、気づくと週に一度は食べるようになりました。地域でお店をしていると、そういった出会いもとても大事に感じます。堀川新文化ビルディング店も皆様にとってそういうお店になればと思うこの頃・・・。

営業時間：10:00～22:00 TEL：075-431-5551

朝晩の冷え込みも厳しくなり、コーヒーやラテがより一層おいしく感じる季節となりましたね。ご存じの方も多いかと思いますが、当店では自家焙煎豆を使用しています。ブレンド比率は・・・エチオピア産の豆が味の決めてとだけ教えておきます。近々もう少し大きい焙煎機の導入を予定しておりますのでぜひ見に来てくださいね。

営業時間：8:30～23:00 TEL：075-431-5551

昌幸堂店舗内のギャラリーで、11.08 tue. から 11.26 sat. まで「TEXTILE Making of TAPESTRY」を開催いたします。TAPESTRY は、第 55 回造本装幀コンクールで主要 3 賞の東京都知事賞に選ばれた五味岳久の全歌詞集。装幀やデザインをした一野篤のスケッチや印刷・製本の生産工程のサンプル等の展示や記録映像をご覧ください。

営業時間：10:00～18:00 TEL：080-4248-3432 月・日祝 定休

[EXTRA-NEUTRAL]
西陣金襴展「西陣ゴゴゴッ」
2022.11.03 thu. - 11.13 sun.
「Pandōrā」Yusuke Sato
2022.11.18 fri. - 12.04 sun.
営業時間：10:00～19:00 TEL：075-431-5537

「からみあうものきざまれたとき」 山添潤
2022.11.05 sat. - 11.20 sun.
営業時間：13:00～19:00 TEL：075-334-5085 水・木 定休



〒602-8242 京都府京都市上京区皂莢町287
[アクセス]
○地下鉄東西線「二条城前」駅より徒歩15分
○京都市バス9番・12番・50番・67番系統
「堀川中立売」バス停下車徒歩1分
○駐車場・駐輪場あり
※満車の場合は近隣のコインパーキングをご利用ください。



ホームページ



Instagram

お問い合わせはHPまで



——子供時代のお話をお聞かせください

子供のころは美術が全般、特に絵を描くのが好きで、学校で植物の絵を描いたり、家の花瓶の花を黙々と描いていたりして、私って美術が好きなんやな、と認識した子供時代でした。大学進学の際に、一番好きなのって美術やしもつとたくさんしたいな、と思い芸大に進学しました。

——作家を志したきっかけを教えてください

芸大時代はもともと染織をやりたくて。でも一年生の時に実習で漆を体験して、液体ですけど立体を作ることができ、色々な装飾技法がある漆を、直感的に大変そうだけど面白そう、と思いました。大学時代はアート作品を作っていました。卒業後は修復の仕事や伝統工芸でお客様の要望に応えるようなものを作っていたのですが、形の無いもの、感情や感じたことを人に伝えようとした時に、物を作って現すことは私にとって一番自由度が高いと感じて、作家という形でみんなに何かを伝えるようなモノづくりをしたいと思いました。自分の中にあるものを人に伝える手段、人によって様々ですけど、文字を書いたり、話をしたり、身体表現だったり、そういう様々な表現方法を私の中で少しずつ消化してきて、何もない所に自分の手で物質として作り上げるのが、一番自由にイメージを形にできるのかな、と最近はより明確に思っています。自然物に興味を惹かれることが多いのですが、実際のもと同じ形を作るのではなく、感じたきれいな色や儚さを、どうやって自分の形として現せるのかなという作業をしています。

——今回の作品について聞かせてください

今回は新しいアプローチの作品を出しています。漆のドロイングは、今まで少しずつ実験的にやってきました。和紙に漆を塗って、乾かすのですが、漆は湿度のある所でないと乾かないので、漆室で温度、湿度を調節して乾かします。普通の絵具と違って、塗った時と乾いた時で色や滲み方が変わる部分が面白いところですよ。

もう一つの作品では、乾漆という古くからある技法を使っていて、芯に布を張りこめて硬い膜を作った上に、漆で下地をして、芯を抜き取ると中が空洞で自立した形が作れます。大学時代は作りたいモノと素材の不一致もありましたが、十五年くらい続けてきて、漆だったらこういうモノを作るのが素敵だな、というのも最近分かるようになってきて、今回の展覧会で作った器状の作品は自分が考えてきたこと、素材としてのできるプロセス、新しい技法としてのチャレンジが融合し形になったかな、と思います。

——制作環境について教えてください

京町屋のアトリエで制作しています。漆が埃とかちりをどうしても嫌うので、一人でアトリエを使っています。漆を乾かす一畳くらいの室が置けたり、大きい建具の搬入出ができたり、という条件を考えて選んだ場所です。

——せっかくなので日置さんの著書である環（たまき）についてお聞かせいただけますか

色んなことが重なっているのですが、金継ぎキットのための技法書を作ろうと思ったのがきっかけです。技法はもちろんですけどモノづくりの背景と環境、漆という素材の採取、金継ぎなので焼き物をつくる職人さんがいて土があって、私が手作りする道具も職人さんが作る道具もあり、そういう全てがあるから私は漆が好きで、そのことを本に書き、伝えたいなと思って。和製本という特殊な形の美しい本になりました。

——展覧会に来られた方に一言

あまり深く考えずに雰囲気を楽しんだり、意味を考えずに楽しんだりしてもらえれば。



好きな本

タラブックスの絵本

『Savoir & Faire 木』

(エルメス財団編)

講談社